

会 議 録

会議の名称	令和7年度第3回西東京市介護保険運営協議会
開催日時	令和8年2月6日（金曜日） 午後7時から午後8時30分まで
開催場所	西東京市役所 田無第二庁舎4階会議室
出席者	（出席委員） 梶川副委員長、岡田委員、内田委員、大澤委員、花坂委員、森委員、佐藤委員、小口委員、奥井委員、加瀬委員、立川委員、松本委員 （欠席委員） 渡邊委員長、藤井委員、伊集院委員、尾林委員、岩崎委員 （事務局） ささえあい・健康づくり担当部長、高齢者支援課長、介護保険担当課長、以下12人
議題	(1) 計画策定に係るアンケート調査（速報）について (2) その他
会議資料の名称	資料1 西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第10期）・認知症施策推進計画の策定に向けたアンケート調査結果（速報） 資料2 令和8年度の介護保険制度 資料2-2 令和6年度の給付費の実績と動向について
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

会 議 内 容

1 開会
2 議題
（1）計画策定に係るアンケート調査結果（速報）について
○事務局 計画策定に係るアンケート調査結果（速報）について、資料1に基づき説明。
○委員 アンケート結果から、認知症を予防することへの関心が見受けられるが、認知症は誰しもがなり得る病気であり、認知症のある人を社会で支えるという認識が重要である。 介護事業所ではハードワークにより離職者が増加し人材不足になっている。また、ケアマネジャーはシャドウワークが当たり前になってしまっている。支援者側が悩みを相談、共有できる場があればよいと考えている。
○委員 『9 西東京市への要望（事業者調査）』の「介護保険制度をよくするために市が力を入

れること」では、「地域全体で介護を支援する仕組みを充実すること」の回答が 31.7%とあるが、具体的に考えている支援策等はあるのか。

○事務局

選択肢の一部であり具体的な意図は込められていないが、地域全体で介護を支援する仕組みとして、多職種の連携強化、インフォーマルな支援の充実等を想定している。

○委員

『1 高齢者の意識・ライフスタイルの変化（高齢者一般調査）』の「働いているか」では、令和4年度に比べて働いている高齢者は増加しているが、「働いていないし今後も働くつもりはない」への回答も 48.5%と半数近くとなっている。社会福祉協議会では様々な活動を用意しているが、高齢者のボランティアは登録が少なく人材不足である。働いていない方々のニーズを把握して、様々な人が活動できる場を提供することは、地域のフレイル予防にもつながると考えている。

○事務局

市としても働いていない高齢者のニーズを把握して、必要な地域資源を提供したいと考えている。

○委員

ケアプランデータ連携システム導入による処遇改善加算について、ケアマネジャーから申請書の書き方が分からないとの意見があるため、申請書の書き方に関する勉強会を開催していただきたい。

○事務局

報酬改定制度の把握に努めて、事務手続きが簡便になるように必要な支援を行いたい。

○委員

事業運営上困難に感じていることとして、職員の給与は上がっているが、人材がいないことである。要因の一つとして、入所者の重度化が進行していることがあり、職員は1年から2年目の離職者が多い。今年の春闘の結果によっては、一般企業との給与の格差が10万円にもなるという予測もある。特別養護老人ホームでは、介護スタッフ以外に看護師、機能訓練指導員、管理栄養士等、介護スタッフ以外の職員も協力しながら介護に携わっているが、これらの職員の給与が上がらない実情がある。派遣職員も増えており、直接雇用が難しくなっている。

(2) 令和8年度の介護保険制度及び令和6年度の給付費の実績と動向

○事務局

令和8年度の介護保険制度及び令和6年度の給付費の実績と動向について、資料2、資料2-2に基づき説明。

○質疑なし

(3) その他

①もの忘れ予防検診の動画視聴

②各委員からのコメント

○委員

もの忘れ予防検診の動画を見た市民の方が、健診を受けようと思ったか聞いてみたい。検診は健康な人に受診してほしいものであり、認知症の疑いがなくても、70歳になったら一度受診してみるというメッセージが動画に込められていたらよかった。

○委員

介護医療院でも人材不足の影響で100パーセント希望に応えられないことがあり、人材の確保は重要である。もの忘れ予防検診は、問題がない時から受診して変化を知ることが大切であり、内科的な検診と同様なものだとすることを伝えていきたい。

○委員

訪問介護事業所でも職員が減少しており、1人の利用者に対して複数の事業所のヘルパーで訪問することがあり、どこの事業所のヘルパーが来ているのか利用者が戸惑うことがある。多職種の連携も重要だが、同業種同士の横の連携も重要である。西東京市全体の介護事業所として利用者に対応していきたいと考えている。

○委員

アンケート結果では、在宅介護者の7割が施設への入所を検討していないとあったが、実際に、入所の申し込みをしている方で順番が来ても断るケースも多い。家族だけでは支えきれないこともあるため、デイサービス、ショートステイ等でレスパイトを強化していきたい。

○委員

本人も家族も「認知症になったらおしまい」と恐怖に感じているところがある。認知症になっても何もできなくなるわけではなく、正しい知識を普及させていくことが重要である。

○委員

身寄りのない人、養護者の虐待など難しいケースが増えている。最近では、市が地域包括支援センターを後方から支援していただき感謝している。地域包括支援センターでも人材確保が難しく年齢層が上がっている。当センターでも保健師が数か月欠員しており、専門職を適正に配置することが難しくなっている。また、介護予防プランやケアマネジメントの委託について地域の居宅介護支援事業所でのケアマネジャー不足等の影響もあり課題となっている。今後予防ケアマネジメントの担い手、受け皿を検討していく必要性を感じている。

○委員

認知症と診断された際の様子ที่わかる動画があるとよいと思った。認知症になっても皆で支え合う社会ができるとよい。

○委員

フレイル予防の一環でアクアビクスを習っている。アンケート結果で働くつもりがないと回答した人がいたが、働いていなくても介護予防のために様々な活動を行っている人はいると思う。

○委員

施設に入れたくないと回答した介護者が多いことに驚いている。フレイルのことを知らないという回答した人は前回調査から減っているが、減り具合が少ないため、更に周知していく必要がある。

○委員

子育てを終えた世代で集まると親の介護の話になることが多い。介護の良かったケースを聞けると、自分が介護する際の参考となるためありがたい。介護者同士が情報を共有できる場が増えるとよい。

○委員

民生委員として、日頃、地域で困っている方を地域包括支援センターにつなぐ活動をしている。横のつながりが重要であると感じている。もの忘れ予防検診だけではなく、動画を活用して様々なことを周知していけるとよい。本日の会議で様々な相談窓口があることを知ることができた。

3 閉会